

光南、玉野商、玉野高 記念うちわ完成 選手らに爽やかな風を

岡山を主会場に開かれる中国インターハイ(全国高校総体、7月28日開幕)に向け、光南、玉野商業、玉野高の生徒が、バドミントンの選手らに配る記念うちわ計545枚を完成させた。うちわ本体には手書きの激励メッセージなどが添えられており、選手らに爽やかな風をプレゼントする。(近藤哲也)



県内78高から選ばれた20人の高校生委員らによる県推進委員会が全高校からアイデアを募り、記念うちわの製作を決定。競技ごとに計9種類1万3千枚を作り、各校で仕上げることにした。光南高は270枚、玉野商業高は150枚、玉野高は125枚を担当した。玉野高では21日に作業が



バドミントン会場で配布 メッセージ添え活躍祈る

あり、1〜3年の希望者83人が参加。県から提供された本体に、ラケットを振りかぶったバドミントン選手のシルエットと、県のマスコット「ももっち」「うらっち」のイラストが描かれたシールを慎重に貼り付けた。

生徒たちは「がんばって」「Never give up」などのメッセージをフェルトペンで書き込みながら選手活躍を祈った。うちわは、競技会場である岡山市のジッパアリーナなどで配られる。バスケットボール部の3年垣内晶博さん(17)は「地区予選を勝ち抜いた選手たちが岡山で力を発揮できるよう気持ちを込めた」と話していた。

同高は3月、生徒有志らがJ.R宇野駅前中国インターハイを予告する横断幕を掲げ、ポケットティッシュを配るPR活動を展開。同高の全国高校総体実行委員長を務める3年小金谷明代さん(18)は「地元インターハイをぜひ盛り上げたい。自分たちの思いが選手たちに届いてほしい」と願っている。

うちわは光南高は3月、玉野商業高は4月に完成させた。

選手たちの活躍を願って記念うちわを完成させる玉野高生たち

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。